

名古屋フィル音楽監督

川瀬賢太郎

Kawase Kentaro

札幌、OEKにも100%の愛

「川瀬カラー」が現われてきたのだろう。名古屋フィルのことも名曲コンサートは、親子連れ主体の客席の活気が印象的だった。川瀬賢太郎は、4月に就任した名フィル音楽監督に加え、札幌交響楽団正指揮者、オーケストラ・アンサンブル金沢のパーマネント・コンダクターを務め、活動が全国に広がる。これも名曲の終演後、名フィルとの活動を中心に思いを聞いた。

——小学生には、45分の曲を聴き通すのは大変ではないでしょうか？

集中してもらわなくなっていくので、自分にも3歳の息子がいるから分かります。声を出したり、「つまらない」と言ってくれてもいい。コンサートは緊張が強いられます。海外でもどこでも、若い世代の演奏会離れが指摘される。子どものうちからまるまる2時間、演奏会を体験すれば「抗体」ができます。子どものための演奏会や学校公演はどの楽団もやっている。ですが、名フィルでは主催公演、すなわち自主公演でやらなくてはと思ったのです。

——音楽監督として、達成できつつあることは？



「ずれたっていい。いい音楽をつくる」

まだなにもありません、地道に音楽をやっていく。一生懸命音楽をすれば、「名フィルいいね」と言ってもらえるのではないかな。

——首席指揮者でも常任でもない、音楽監督の肩書きをどのように受け止めますか？

音楽監督を務めるのは初めてですから、手探りです。音楽をよくするために、なんでもやりたい。

美は細部に宿る

——透明感のある響きなど、もっと音色の引き出しを増やすのが課題だと昨日の記者会見で語りました。

「課題」とは思っていない。音色

を引き出すのは、指揮者の仕事です。オーケストラにはフレージスの取め方など、知らない間に身についた長年のくせがある。直すというはおこがましいのですが、指揮者として楽譜に立ち帰ろうと言うことはできる。私は「美は細部に宿る」と思っています。ポストを持っているからこそ、こだわることができる。共同作業を通じて引き出しを増やしたいと思います。

——「美は細部に宿る」とは印象的な言葉です。《シエラガード》では、どんな要求をしましたか？

冒頭の王のテーマは、もっと凶暴な音を出しましょうと言いました。第3楽章の王子と王女は、想像に委ねられており、私はそれぞれ10歳だと

思っている。八分の六拍子は、揺りかごのスイングのように。表情を歌いましょう、拍で音楽をせず、横で作りましょうと言いました。晃くん(ゲスト・コンマスの水谷晃)はクリエイティブで協力的で、引き出しをたくさん持っている。心強く思いました。演奏会前日に、「リスクを取っていいこう」と二致しました。ずれたっていい、いいものをつくらうということです。

——継続的に取り組む作曲家は？

マーラーとハイドンは。それぞれの音楽を通じて、オーケストラとともに共通の課題を見つけていきたい。

演奏会に行った「記憶」大切に

——名フィルで目標とすることは？

名古屋に愛されるオーケストラに、ということ。名古屋自体が大き

マルチに活動する指揮者たち

vol. 3

「名フィル 地元で愛される楽団に」



しらかわEXP マチネ&ソワレでメンデルスゾーン・プロを指揮する川瀬賢太郎 (6月15日、三井住友海上しらかわホール。名フィル提供)

全部100%。札幌では札幌に、金沢では金沢に愛を注ぎます。音楽監督だから100%、他は75%、50%なんてことはまったくなく。すべて100%の愛です。

ポテンシャル高い札幌

——札幌はどんな印象でしょうか？

初日のリハーサルからとてもすばらしい。クオリティが高い。もともとポテンシャルが高かったのに加え、世代交代がうまくいった。ポスのパーメルトさん、そして「友情指揮者」の師匠、広上さんがいて私がいる。それぞれの持ち味を出せればと思う。

北海道は広い。どこまで行っても北海道です。岡崎から名古屋へ行くの覚と、釧路、根室から札幌に行くのは全然違う。ですから札幌は北海道内のさまざまな街を訪れます。会場

の音響はさまざま。体育館で演奏することもある。どこでも、どんな条件でも手を抜かない。そして、北海道中で温かく迎えられるます。

OEKでは現代ものにか

——ではOEKとはどんな関係を発展させたいと思いますか？

パーマメントとなつてもう8年です。とりわけコロナ禍では、ミンコフスキやスターンが来日できず、代演を務めることも多かったため、絆が深まりました。

OEKには、(創設者の)岩城宏之さんが設けたパーマメント・コンポーザー(常任作曲家)の制度があります。OEKが得意とする古典ものとともに、現代曲の初演や再演に力を入れたいと思います。

な都市です。外を向くより、まずは名古屋。師匠(の広上淳二)流に言うなら、もつとかわいがつてもらえるオーケストラに成長させたい。仮にリニアが開通すれば、東京と名古屋間は、40分です。東京のお客さんが来やすくなるばかりでなく、名古屋のお客さんが東京のオーケストラを聴きに流出してしまうかもしれない。今の時代は、常に名古屋らしさというよゆうな、「らしさ」が壊れるリスクがあります。「こども名曲」に力を入れるのも、これから先も、名古屋の人には音楽を聴くならまずは名フィル、と定着させたいからです。出会いは大切。なんだか分からなかったが、オーケストラの演奏会に行った、パパとママが楽しそうだったという記憶は残ります。

——名フィルの音の特色はどんなふうに感じていますか？

分厚い音。火をつければばつと燃え上がります。骨格がしっかりしているのが持ち味です。

——《シエラザード》では、とても歌うオーケストラだという印象を持ちました。歌いますよ。歌心がある。外国人の楽員もいて、よく歌います。

——札幌交響楽団の正指揮者、オーケストラ・アンサンブル金沢のパーマメント・コンダクターの地位を兼ねています。

公演情報

名古屋フィル第517回定期演奏会

11月17日(金)18:45、18日(土)16:00

愛知県芸術劇場コンサートホール

川瀬賢太郎(指揮/名フィル音楽監督)

コリヤ・ブラッハー(ヴァイオリン)*

宮田まゆみ(笙)**

●ベルク:ヴァイオリン協奏曲

《ある天使の想い出に》*

●細川俊夫:光に満ちた息のように**

●ワーグナー:歌劇《ローエングリン》

第1幕への前奏曲

●R. シュトラウス:交響詩《死と浄化(変容)》

オーケストラ・アンサンブル金沢

第478回定期公演マイスター・シリーズ

2024年3月9日(土)14:00

石川県立音楽堂コンサートホール

指揮 川瀬賢太郎(OEKパーマメント・コンダクター)

吉井瑞穂(オーボエ)

●フィンジ:弦楽のためのロマンス

●ヴォーン・ウィリアムズ:オーボエ協奏曲

●ヴォーン・ウィリアムズ:交響曲 第5番

札幌交響楽団森の響フレンド名曲

2024年3月16日(土)14:00

札幌コンサートホールKitara

指揮 川瀬賢太郎(正指揮者)

スーパー・プラス・スターズ /

中川英二郎(トロンボーン)、

エリック・ミヤシロ(トランペット)、

本田雅人(サクソフォン)

●マルケス:ダンソン第2番

●コーブランド:《アパラチアの春》組曲 ほか

川瀬がマーラー6番や《ばらの騎士》組曲 名古屋フィルが来季ラインナップ

小林研一郎の《わが祖国》も

名古屋フィルは、2024〜25年シーズン定期演奏会のラインナップを発表した。2年目に入る音楽監督の川瀬賢太郎は、11プロのうち3回を担当。今年4月の就任披露演奏会のマーラーの交響曲第5番に続き、第6番を振る。幕開けは、桂冠指揮者の小林研一郎が登場し、生誕200年のスメタナの連作交響詩《わが祖国》を指揮する。

川瀬はまず6月定期で、コダーイの組曲《ハリー・ヤーノシュ》、ハイドンの交響曲第45番《告別》、モーツァルトの《フィガロの結婚》序曲、R・シユトラウスの《ばらの騎士》組曲というユニークなプログラムに臨む。川瀬は記者会見で「音楽監督としてのテーマの一つがハイドン。《ハリー・ヤーノシュ》はツインパロンが必要でめったに指揮できないが、ずっとやりたかった。R・シユトラウスは3本の指に入るほど好きな作曲家で、《フィガロ》との相性もいい」と話す。

10月定期はベートーヴェンの交響曲第5番で直球勝負。25年2月のマーラー6番は、名フィルとは就任披露の5番のほか、以前に指揮した4番、1番から続く取り組みとなる。

4月の《わが祖国》は、チェコの「プ

第522回定期演奏会〈チェコ人の喜怒哀楽 / スメタナ生誕200年記念〉

4月19日(金)18:45、20日(土)16:00
愛知県芸術劇場コンサートホール
小林研一郎(指揮)
●スメタナ:連作交響詩《わが祖国》

第523回定期演奏会〈仲間を失う哀しみ〉

5月17日(金)18:45、18日(土)16:00
愛知県芸術劇場コンサートホール
アンガス・ウェブスター(指揮)
バク・ハヤン(ヴィオラ)*
●J. ウィアー:ニュー・エヴリ・モーニング
●ウォルトン:ヴィオラ協奏曲 [1961年版]*
●ドヴォルザーク:交響曲第7番

第524回定期演奏会〈さよならの哀しみ〉

6月14日(金)18:45、15日(土)16:00
愛知県芸術劇場コンサートホール
川瀬賢太郎(指揮)、齊藤浩(ツインパロン)*
●コダーイ:組曲《ハリー・ヤーノシュ》*
●ハイドン:交響曲第45番《告別》
●モーツァルト:歌劇《フィガロの結婚》序曲
●R. シユトラウス:
楽劇《ばらの騎士》演奏会用組曲

第525回定期演奏会〈ある女性の怒りと哀しみ〉

7月19日(金)18:45、20日(土)16:00
愛知県芸術劇場コンサートホール
ダミアン・イオリオ(指揮)
ジャン・チャクムル(ピアノ)*
●グリンカ:歌劇《ルスランとリユドミラ》序曲
●チャイコフスキー:ピアノ協奏曲第1番*
●ショスタコーヴィチ [コンロン編]:
歌劇《ムツェンスク郡のマクベス夫人》組曲

第526回定期演奏会〈喜んで生きよ〉

9月13日(金)18:45、14日(土)16:00
愛知県芸術劇場コンサートホール
小泉和裕(指揮)
●モーツァルト:ディヴェルティメント第17番
●チャイコフスキー:交響曲第4番

第527回定期演奏会〈運命に怒る〉

10月11日(金)18:45、12日(土)16:00
愛知県芸術劇場コンサートホール
川瀬賢太郎(指揮)、佐藤晴真(チェロ)*
●ベートーヴェン [シュルホフ編]:
ロンド・ア・カプリッチョ
《失われた小銭への怒り》
●グルダ:チェロ協奏曲*
●ベートーヴェン:交響曲第5番《運命》

第528回定期演奏会〈喜怒哀楽を超えて / ブルックナー生誕200年記念〉

11月15日(金)18:45、16日(土)16:00
愛知県芸術劇場コンサートホール



小泉和裕



ダミアン・イオリオ



小林研一郎
©山本倫子



ウェイン・マーシャル

下野竜也(指揮)

- 坂田直樹:委嘱新作
- ブルックナー:交響曲第9番 [原典版]

第529回定期演奏会〈愛の喜びと哀しみ〉

12月6日(金)18:45、7日(土)16:00
愛知県芸術劇場コンサートホール
アントニ・ヴィット(指揮)
●森岡聡(ヴァイオリン)*
●シューマン:序曲《ヘルマンとドロテア》
●シューマン:ヴァイオリン協奏曲*
●チャイコフスキー:
幻想曲《フランチェスカ・ダ・リミニ》
●チャイコフスキー:
幻想序曲《ロメオとジュリエット》

第530回定期演奏会〈エモーショナルな音楽〉

2025年1月17日(金)18:45、18日(土)16:00
愛知県芸術劇場コンサートホール
ロベルト・フォレス・ベセス(指揮)
カミーユ・トマ(チェロ)*
●小出稚子:委嘱新作
●サン＝サーンス:チェロ協奏曲第1番*
●ラフマニノフ:交響曲第2番

第531回定期演奏会〈悲劇のハンマー〉

2025年2月21日(金)18:45、22日(土)16:00
愛知県芸術劇場コンサートホール
川瀬賢太郎(指揮)
●マーラー:交響曲第6番《悲劇的》

第532回定期演奏会〈喜怒哀楽の街〉

2025年3月14日(金)18:45、15日(土)16:00
愛知県芸術劇場コンサートホール
ウェイン・マーシャル(指揮、ピアノ)*
●ガーシュウィン [グローフェ編]:
ラプソディ・イン・ブルー*
●ガーシュウィン:セカンド・ラプソディ*
●バーンスタイン:
ミュージカル《オン・ザ・タウン》より
3つのダンス・エピソード
●ガーシュウィン [R. R. ベネット編]:
交響的映画《ボーギーとベス》

ラハの春音楽祭」でチェコフィルを指揮した小林の十八番。川瀬は「《わが祖国》の指揮で右に出る人はいない。ぜひに、とオーブリングをゆだねることにした」と語った。ブルックナーの生誕200年では、下野竜也が11月に交響曲第9番を振る。名誉音楽監督の小泉和裕は、得意のチャイコフスキーの交響曲第4番を9月に指揮する。客演では英国出身でサンクトペ

テルブルクで指揮を学んだダミアン・イオリオが、演奏機会のまれなシヨスタコーヴィチの歌劇《ムツェンスク郡のマクベス夫人》組曲を取り上げる。名フィルへの客演を重ねるポーランドのアントニ・ヴィットは、シューマンとチャイコフスキープロケルンWDR首席客演指揮者だったウェイン・マーシャルは、ガーシュウィンの《ラプソディ・イン・ブルー》を弾き振りする。

■ 問い合わせ: 名フィル・チケットガイド 052-339-5666